

# 【最優秀賞】



氏名 ユン チェユン  
国・地域 大韓民国  
在日期間 7ヶ月  
所属 神村学園高等部

## タイトル： 国籍からの自由

こんにちは。私は大韓民国から来たユン チェユンと申します。

私は自分がこの場でスピーチをすることができてとても光栄です。今日、私をこの場に  
いさせてくれた三人の話をお聞かせします。

その一つ目は、私が小学生の頃にさかのぼります。私の学校には母が日本人で父が韓国  
人の友達が一人居ました。ランドセルをしょい、その当時日本で流行していた服を着て  
いたその友達は、他の韓国の小学生とはかなりかけ離れた存在のように見えました。そ  
んなある日、私とその友達は同じ討論サークルに入ったことをきっかけに親しくなっ  
たのですが、他の韓国の学生と全く違わず驚いた記憶があります。恥ずかしい話ですが、幼  
い頃私は、その友達を日本人ハーフだという理由だけで「私たちとは違うだろう。」とい  
う偏見に満ちた考えを持っていました。その友達と私は一緒にたくさん日本と韓国につ  
いて話を交わして、私が日本について関心を持って日本語を勉強するきっかけを作っ  
てくれました。

そして時間が経って中学生になった時、私は日本語をもっと深く学びたいと思い、日本  
語の塾に通うことになりました。その塾は韓国人と結婚した日本人の先生が運営する塾  
でした。私は先生と一緒にたくさん話を交わしながら日本語と日本の文化について学  
ぶことができました。ある日私は先生にこんな質問をしました。

「私が日本に行った時、どうすれば日本人の友達を作ることができますか？」

その時、先生はこう答えました。

「人と関係をつぶるとき、国籍に基づいてはいけません。国籍に基づいた友情は、一人の国  
籍を一次元的に考え、平面的に考えやすいのですよ。これがまさに私がこんなに長い時  
間韓国で生きてこられた理由でもあります。私が韓国で築く関係は日本人と韓国人の関  
係ではありません。その関係にはその人と私だけが存在するのです。」

先生はいくつかの文化が彼らだけの違う信念を持っていて、文化別に注意しなければな

らない点があるのは事実ですが、ひたすら国籍に基づいて友情を築こうとすれば、その人との関係間で問題が生じるだけでなく、その国自体に対する誤解と期待につながりかねないと言いました。

私は最初から答えが存在しない質問をしたのです。その日は先生の助言から私が海外に出て外国人と関係を結ぶ時、発展させなければならない方向性について深く学ぶことができました。

そして高校生になって私は日本語の實力をもっと成長させたいという気持ちでペンパルを始め、ある友達に出会いました。その友達は父が日本人、母が韓国人のハーフでしたが、日本で生まれ、ずっと日本で暮らしてきて国籍も日本国籍を持っていたので韓国語もほとんど話せませんでした。それで私はその友達が当然自分のアイデンティティを日本人だと思っているだろうと勝手に判断していました。しかしその友達は私にこう言いました。

「私は日本人ですが、同時に韓国人でもあります。私は自分がハーフで、二つのアイデンティティを持っているという事実を誇りに思います。」

友人の話聞いて、私は国籍というのは本当にその人を定義できないことに気づきました。彼女のパスポートには日本人と書いてありましたが、彼女は日本人であると同時に韓国人であるとも思っていました。私はそれに気づいてからその友達にまともに向き合うことができました。国籍から自由になって初めてその人をその人自身としてみるのができたのです。

ある人は、私たちが変わらないことを教えてくれました。

ある人は、友情は国籍に基づいてはならないことを教えてくれました。

そして、ある人は、国籍はその人を定義できないということに気づかせてくれました。

私はこの三人から学んだことを忘れずに日本に来て今この場に立っています。この学びがなかったら、私は日本に来られなかっただけでなく、日本に適応できず、すぐに韓国に帰っていたかもしれません。国籍という枠で日本で築いた友達との関係はすべて「韓国人」と「日本人」で止まってしまっていたはずですから。ほとんどの人は外国人と関係を結ぶとき、主に国籍に基づいた関係に発展させる傾向があります。他国から来た人々を国籍で縛ってしまえば、その人を文化と慣習の面で理解しやすくなり、互いに異なる文化を学ぶ機会になりうるということは事実です。しかし、このような考え方は国籍によって人を判断してしまったり、ある国に対する偏見を持って潜在的な友人を排除してしまう結果を招く恐れがあります。

これから時間が経てば経つほどもっと多文化家庭が多くなり、私たちの周辺でも外国人を簡単に探すことができるでしょう。私たちはこれ以上友情を築いていくことに国籍が障害物になるようなことはしてはいけません。国籍は私たちを決定づけるものではないのです。

皆さんも周りに外国人の友達はいますか？それなら、その友達から「外国人」という概念を無くして、皆さんの友達を見てあげてください。国籍から自由になった時、初めてその人が見えますからね。